

HEKIYOUKAI

# 辟 雍

2020年 第17号

東京学芸大学辟雍会機関誌

## 辟雍 第17号

### 目次

会長挨拶	2
沿革	3
支部支部設立状況・支部便り	4
支部連絡先一覧	11
会員から	12
コロナ禍の中で想う	24
辟雍会修学支援金貸与 学生の近県学校訪問	26
2020年度各部の活動	27
あとがき	28



本会は東京学芸大学の学部等の学生、  
同窓生、教職員で構成されています



2020年 新型コロナウイルス対応後の昼間正門閉鎖風景



## 2020年会長挨拶

長谷川 正

新型コロナウイルス感染症が未だ収束していませんが、会員の皆様、如何お過ごしでしょうか。

昨年11月に中華人民共和国湖北省武漢で発生した新型コロナウイルス感染症が、世界中に広まり、今年は大変な年になってしまいました。会長就任直後に、緊急事態宣言が発令され、大学も入構禁止となりました。このため、本会事務所も一時閉鎖せざるを得ませんでした。大学では、後期になっても入構制限が続き、一部授業は対面式となりましたが、ほとんどの授業はオンラインで行われています。毎年11月に行われサークルやクラスの結びつきを深める機会ともなっていました恒例の小金井祭も中止となってしまいました。新入生は学芸大生となった実感が湧いてないかもしれません。早く、大学生活を満喫できる日が来ることを祈るばかりです。

10月末に予定していました本会の全国代表者会議も、大学で開催することができず、メール会議となってしまいました。今年は宮城県に新たな支部が設立されました。他にも支部設立を計画中の県がありますが、感染症が収束しないと、有志の方が集まるのも難しく計画を進めるのはなかなか大変と思います。

ニュートンが木からリンゴが落ちるのを見て万有引力を思いついたという「リンゴの木」のエピソードは、皆様ご存知のことと思います。このエピソードが、今のようなパンデミックの時に生まれたということをご存じでしたでしょうか。

ニュートンが大学生だった1666年の頃、ヨーロッパではペストが猛威を振るいパンデミックとなり、多くの人が密集した都会を逃れて田舎に疎開し、大学も休校となってしまいましたため、ニュートンは英国ウルズソープに帰省していたそうです。「リンゴの木」のエピソードは、この強いられた休暇中のある日の出来事ということです。新型コロナウイルス感染者数が全世界で1億人近くなり、いつ平時に戻ることができるのかも分からない厳しい状況ですが、このような中から、新しい生活の様式や教育の在り方等が考案されてくると思います。ニュートンのような「新しい何か」を見出す人が本会会員の中からも現れてくるでしょう。

日本でも新型コロナウイルスワクチンの接種が始まりますが、まだ暫くは厳しい状況が続くと思います。このような厳しい状況を、逆に、本会発展の方策を見出す機会と捉えて新たな活動をしていきたいと思っています。会員の皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。

【会長略歴】昭和46年本学卒業。東京教育大学修士・博士課程修了後、米国シガン州立大学博士研究員を経て、昭和55年本学赴任。この間有機光化学の研究に従事し、本学赴任後は、化学教育の研究にも従事し、平成24年日本化学会化学教育賞受賞。平成25年定年退職。同年より令和2年3月まで理事・副学長。同年4月より本会会長。平成26年より日本化学会フェロー。

## 沿 革

- 2003.11.03 (平成 15) 「辟雍会 (東京学芸大学全国同窓会)」創立  
2003.11.03 (平成 15) 「辟雍会 (東京学芸大学全国同窓会)」創立  
荒尾禎秀会長就任
- 2003.12.07 (平成 15) 青森県支部設立
- 2005.07.02 (平成 16) 石川県支部設立
- 2005.08.22 (平成 16) 富山県支部設立
- 2005.10.01 (平成 16) 岩手県支部設立
- 2006.02.25 (平成 18) 千葉県支部設立
- 2006.04.01 (平成 18) 荒尾禎秀会長再任 (2 期目)
- 2006.10.01 (平成 18) 島根県支部設立
- 2007.06.24 (平成 19) 高知県支部設立
- 2008.04.01 (平成 20) 長谷川貞夫会長就任
- 2009.08.01 (平成 21) 北海道支部設立
- 2009.10.31 (平成 21) 東京学芸大学創立 60 周年記念シンポジウムを本学と共催
- 2010.04.01 (平成 22) 鷲山恭彦会長就任
- 2011.01.29 (平成 23) 岡山県支部設立
- 2011.02.27 (平成 23) 鳥取県支部設立
- 2011.03.26 (平成 23) 静岡県支部設立
- 2011.08.28 (平成 23) 新潟県支部設立
- 2011.10.30 (平成 23) 広島県支部設立
- 2011.11.26 (平成 23) 神奈川県支部設立
- 2012.04.01 (平成 24) 鷲山恭彦会長再任 (2 期目)
- 2012.08.17 (平成 24) 山梨県支部設立
- 2012.10.07 (平成 24) 鹿児島県支部設立
- 2013.07.27 (平成 25) 群馬県支部設立
- 2013.11.02 (平成 25) 本会を「東京学芸大学辟雍会」と改称  
本会創立 10 周年記念祝賀会開催
- 2014.03.15 (平成 26) 佐賀県支部設立
- 2014.04.01 (平成 26) 鷲山恭彦会長再任 (3 期目)
- 2014.06.15 (平成 26) 栃木県支部設立
- 2014.10.11 (平成 26) 熊本県支部設立
- 2014.11.08 (平成 26) 大分県支部設立
- 2015.05.31 (平成 27) 埼玉県支部設立
- 2016.02.20 (平成 28) 宮崎県支部設立
- 2016.04.01 (平成 28) 馬淵貞利会長就任
- 2017.09.14 (平成 29) 韓国支部設立
- 2018.04.01 (平成 30) 馬淵貞利会長再任 (2 期目)
- 2018.08.17 (平成 30) 香川県支部設立
- 2019.08.30 (令和元) 福井県支部設立
- 2020.02.22 (令和 2) 宮城県支部設立
- 2020.04.01 (平成 2) 長谷川正会長就任

# 支部便り



## 各支部の設立状況

番号	名称	設立年月日
1	青森県支部	2003.12.07(平成15)
2	石川県支部	2005.07.02(平成17)
3	富山県支部「獅子の会」	2005.08.22(平成17)
4	岩手県支部	2005.10.01(平成17)
5	千葉県支部	2006.02.25(平成18)
6	島根県支部	2006.10.01(平成18)
7	高知県支部「高知辟雍会」	2007.06.24(平成19)
8	北海道支部	2009.08.01(平成21)
9	岡山県支部「岡山辟雍会」	2011.01.29(平成23)
10	鳥取県支部	2011.02.27(平成23)
11	静岡県支部「静岡辟雍会」	2011.03.26(平成23)
12	新潟県支部	2011.08.28(平成23)
13	広島県支部「広島辟雍会」	2011.10.30(平成23)
14	神奈川県支部	2011.11.26(平成23)

番号	名称	設立年月日
15	山梨県支部	2012.08.17(平成24)
16	鹿児島県支部	2012.10.07(平成24)
17	群馬県支部「群馬辟雍会」	2013.07.27(平成25)
18	近畿支部	2013.10.26(平成25)
19	佐賀県支部	2014.03.15(平成26)
20	栃木県支部	2014.06.15(平成26)
21	熊本県支部	2014.10.11(平成26)
22	大分県支部	2014.11.08(平成26)
23	埼玉県支部	2015.05.31(平成27)
24	宮崎県支部	2016.02.20(平成28)
25	韓国支部「韓国辟雍会」	2017.09.14(平成29)
26	香川県支部	2018.08.17(平成30)
27	福井県支部	2019.08.30(令和元)
28	宮城県支部	2020.02.22(令和2)

## 北海道

毎年8月上旬に札幌で開催しております、恒例の辟雍会北海道支部同窓会(総会・懇親会)について、佐々木敏会長(令和2年11月15日ご逝去、享年71歳)を中心に事務局で協議の上、新型コロナウイルスの感染リスクに対する懸念が大きい状況の中にあつて、全道各地から会員諸氏にご参集いただくのは難しいと判断し、誠に残念ではありましたが、6月に今年度の開催を見送ることを決定しました。しかしながら、道内に在住される同窓の皆さんのネットワークを途切れないようにしたいとの思いから、支部便り「カムバックサーモン!」については、例年通り発行することを決め、学生

時代の懐かしい思い出や近況報告を寄せてもらい、取りまとめた便り(第4号)を皆さんに届けることができました。大変な状況の中でしたが、多数の返信をいただき、改めて同窓の絆(きずな)を強く感じた次第です。

事務局では、コロナ禍の収束→終息を念じつつ、令和3年8月7日(土)に皆で顔を合わせ、今年開催できなかった分も含め、会員相互の想いやがんばりなどを語り合えるよう、準備を進めて参ります。全国各支部の皆様のご健康とご活躍を切に願っております。

北海道支部事務局長 中村雅之

## 千葉県

千葉県支部は、船橋市やこの近隣の市町村に在住または勤務する卒業生の団体です。現在の会員数は36名で、県内の教職員や学校管理職の方、企業にお勤めの方、すでに退職され今でも教育に携わっている方など職種も年齢も様々になっています。毎年、市内から県内へと情報を伝達して会員の和を広げ、会員数を増やそうと考えています。

主な活動である定期総会懇親会では、会員の年齢差に関係なく、在学当時の思い出や卒業後から今日までの状況、近況報告などを交換しています。また、諸先輩からは、若手の会員の方々の悩みを受けたり、将来に対するアドバイスもおこなったりしています。

大学卒業後は、それぞれが社会に独り立ちしていくわけですが、将来に対する希望など、上司に相談する前にアドバイスを受けると言ったケースも出てきました。

県内には、私たち千葉支部とは別に高校の管理職を中心とした先生方の団体もあります。千



苦しい経営で話題の銚子電鉄

葉支部へ入会希望の学生諸君は、下記の連絡先でお待ちしています。

今年は支部の活動の写真が撮れない状況下で、一時廃線が叫ばれていた銚子電鉄の写真を送ります。銚子電鉄は今では、皆さまから多くの支援をいただき、活気を帯びています。

千葉県支部事務局長 石井康雄

(1982年A類数学科卒)(元船橋市立金杉台小学校長)

自宅住所:船橋市前貝塚町1010-18

電話番号:047-438-9380(自宅) / 090-3472-3788(携帯)



昨年の総会

## 山梨県

山梨県支部では、昨年2019年8月に、前会長の馬淵先生にも参加していただき、支部懇親会を開くことができました。そのとき、県内の多くの卒業生に呼びかけて、来年8月にも支部総会・懇親会を行おうと予定を立てました。しかし、コロナウイルス対応のために、2020年の支部総会・懇親会は、残念ながら中止ということになりました。来年2021年にはぜひ行いたいと支部事務局で話し合っています。

支部事務局や協力してくれる方たちには、60歳前後の教員が多く、今後は、再任用、講師、農業など、それぞれの道に進んでいくようです。私は、高校の地歴公民科の講師をしながら、甲府で開館している山梨平和ミュージアムでボランティアをしています。この平和博物館は、市民の方たちの募

金を集めて、2007年にオープンしました。甲府空襲の実相や甲府連隊の歴史、山梨県での朝鮮人労働者の戦時動員等の展示と、戦前に日本の植民地政策を批判した、山梨県出身の石橋湛山(戦後、内閣総理大臣に就任)の生涯と思想の展示をしています。ミュージアムでは、戦争と平和に関する市民講座を毎月開いていますが、2009年には、東京学芸大学教授で学芸大の卒業生でもある君塚仁彦先生に「博物館が伝える戦争と平和」というテーマで講演をしてもらいました。山梨県に来るような折には、ご見学ください。

辟雍会山梨県支部 事務局 鮎澤 謙  
(1984年A類社会科卒)

## 神奈川県

2011年11月神奈川県支部が設立され、「歴史ある開港の地・神奈川は遅しく歩む!!」の理念のもと、毎年11月に、総会、研修会・講演会、親睦会を行っています。また、不定期に「学びの会」として企画を立て、会員相互の親睦を図るとともに、広く教育及び文化の振興・発展に寄与することを目的とした活動を目指しています。そのことは、現在置かれている立場や様々な世代間を超え、物事を多角的にとらえ、世界を広げ、懐かしい思いのなか、充実した貴重な時間を持つことができます。

昨年11月16日の総会後には、木村則夫さん(D類書道科卒)に「『書』のよもやま話」文字の起源から現代の・美文字・へたうま字・筆順の正しい知識、高等学校書道では何をどのように学ぶのか」と、幅広いテーマで高等学校での場を講演して頂きました。とても、興味深いお話でした。2020年今年度は、支部発足10周年を迎えるにあたり、昨年の総会后より楽しみな企画を考え始めていました。しかし、今年2月コロナ感染拡大という想像を超えた社会となり、10周年企画もコロナ感染の

収束が見えた時に改めて考え直すこととし、活動も休止するという判断をしました。

感染対策しながらの社会活動の大変さを思う時、今は、会員の皆様のみならず、世界中の人々の、1日も早い安心・安全な世の中がくることを願わずにはいられません。そして、また遅しく歩む神奈川県支部での活動を楽しみにしています。

副会長 萩谷芳子



2019年11月16日神奈川県支部総会後の講演会

## 富山県

富山県の「獅子の会(辟雍会富山県支部)」は、昭和50年頃に数名の仲間の不定期な集まりから始まり、平成2年に規約と名簿を作成して以来、「獅子の会」と名付け、毎年集まって親交を深めています。現在、県内在住の名簿搭載者は300名以上となっています。辟雍会富山県支部となった際も、「獅子の会」の名称を残したいとの支部会員の思いもあり、併記させて頂いています。

令和元年度も8月24日(土)に総会・懇親会を盛大に開催しました。参加者は仕事も年代もばらばらですが、サークルが同じだったり下宿が近所だったり、同じ店によく通っていたりと、同じ年代を同じキャンパスで過ごしたということだけで共通の話題が生まれ、旧知の間柄のように話が弾みました。大学の特性上、教員が多いのですが、放送局の方や議員等職種も様々で、参加者全員が、あの日に戻れる貴重

な場となっています。会の締めくくりには、いつも参加者全員が輪になって「若草もゆる」を歌っています。私たちは、これからもこの会の絆を大切に、少しずつ仲間の輪を広げながら、末永く会を育てていきたいと思っています。

獅子の会(辟雍会富山県支部)事務局 草野 剛  
(1990年A類国語科卒)



獅子の会 2015

## 佐賀県

2020年の支部会総会は、コロナウイルス感染拡大予防のために、近況をSNSで共有する程度で終わりました。支部人数は、現在は15名(2020年8月現在)です。

構成メンバーは、教育関係者が11名、マスコミ(テレビ局)4名になります。年齢層も昨年度同様、変わりなく若い(?)まま推移しています。

教育関係の支部員の元気な様子は文字だけでしか共有できていませんが、マスコミ関係の支部員は、テレビの画



面を通して、その元気な様子を確認できています。コロナ禍で暗いニュースが続く中、佐賀県武雄市のケーブルテレビで働いている支部員が、ケーブルテレビ九州番組コンクールで受賞するという嬉しい報告をいただきました。

活動は年に数回支部会を開催し、それぞれの業界の話題に花咲かせながら、佐賀の地酒を飲み交わしています。今年は全く支部会ができませんでしたので、来年こそ、地酒を飲むという目的だけでなく、佐賀ならではの、熱気球に搭乗することをぜひ実現したいと思っています。

いろいろな業種が混ざった佐賀支部です。これからもいろいろな可能性に挑戦したいと思います。

佐賀支部事務局長 小松原修

## 青森県

青森県支部は毎年夏に総会と懇親会を行っていましたが、今回、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、残念ながら中止となりました。そこで今年は文書会議を実施し、会員に書面表決書の提出をしていただき総会の代わりとしました。

会員が一堂に集まり、近況報告や、思い出話をして学生時代に戻る貴重な機会が無くなったのは本当に残念でなりません。またホームカミングデーの中止など、楽しみにして

いたイベントが開催されず、心のモヤモヤが晴れません。しかし今は我満の時ですね。必ずまた会える機会が訪れます。それを心の支えにしてお互い乗り越えましょう。ソーシャルディスタンスでも心は密に!またお目にかかれる日を楽しみにしております。

青森県支部事務局長 里村 輝  
(1998年N類生涯スポーツ科卒)

## 高知県

高知県内には60名程の学芸大出身者が在住し、年に1回程度懇親会を開催し親睦を深めています。

平成30年3月28日(水)に実施しましたが、新型コロナウイルス感染症のこともあり2年以上開催することができておりません。大人数での懇親会ができませんが、20~30歳代の学芸大出身者も県内にいるようですので、この状況が終息した後は、いい時期に懇親会を開催したいと思っております。

高知県に在住されている方で、この「支部だより」のスペースを読まれた方は、支部長の宮地か事務局の中山のメールアドレスまたは携帯電話まで連絡をいただきたいです。また、高知県内の学芸大卒業生所在の情報がある場合にも連絡をください。懇親会の案内をさせていただきますのでよろしくお願いします。和気あいあいとした和やかな会です。

ちなみに平成30年3月28日の参加者は、1974年卒D類保体科 宮地彌典(高知支部長)、1975年卒D類書道科 大西正子、1977年卒D類保体科 柚村 誠(副支部長)、19

77年卒D類美術科 西 緑、1985年卒D類数学科 黒瀬忠行、1988年A類保体科 宇賀孝篤(副支部長)、1988年卒A類理科 若江卓恭、1989年卒D類保体科 西内一人、1992年卒N類生涯スポーツ科 池添伊佐子、1994年卒A類数学科 田所良夫、1990年卒B類数学科 松山 幸、1990年卒D類数学科 中山泰志の12名でした。

支部長 宮地彌典(1973年D類保体科卒)  
TEL:090-5911-5088  
メールアドレス:m-hirosuke@miyajigakuen.jp

副支部長 柚村 誠(1977年D類保体科卒)  
宇賀孝篤(1988年A類保体科卒)

事務局 中山泰志(1990年D類数学科卒)  
TEL:090-4976-9220  
メールアドレス:k\_kobun4769@docomo.ne.jp

## 栃木県

辟雍会栃木県支部は、2014年(平成26年)6月に設立され、本年で6年目を迎えました。栃木県支部には約100名の登録があり、多くの方々が栃木県内外で活躍しています。支部の方々が互いに連携して、栃木県の教育、文化、スポーツの未来を語る、なんと素晴らしいことでしょう。会に参加される方は、まず、1人誘ってくる。その次にはもう1人誘ってくる。すなわち、 $2^{n-1}$ の関数ですから、あっという間に100人越えです。

最近では、2020年2月22日(土)、新型コロナウイルス感染拡大が懸念される直前に、長谷川正会長(当時は大学の副学長)をお招きし、総会・懇親会を開催しました。会長の教え子も参加し、温かな会になりました。初めて参加された方が複数名いらっしゃいました。コロナ禍だからこそ、人と人の繋がりを大切にしたいものです。新卒業生のみな

さんの参加を心待ちにしています。栃木県内に就職(定住)したら東京学芸大学同窓会「辟雍会栃木県支部」に是非ご連絡ください。

栃木県支部事務局 久保正彦



## 福井県

昨年の11月30日に、東京学芸大学辟雍会の馬淵貞利前会長、松川正樹副会長をお迎えし、発起人5人で福井県支部を立ちあげました。

それから早1年経ちましたが、当初より川上啓一郎氏(S55卒)と支部の組織拡大を目指し、大学卒業者を調べるなど情報収集に東奔西走してきました。特に今年の2月頃からは新型コロナウイルス感染が拡大していく中、郵送でのご案内や機会を捉えての声かけなど年齢幅も含め広く県内在住の卒業生の方々に全国会員や支部会員の勧誘を進めてきました。11月現在で300有余の卒業者数の中から30数名の賛同を得、支部としての組織がようやくできあがったように思えます。

設立時にあたり今年度、総会の初会を予定していましたが、コロナ禍の中、初会は見送ることとし、現時点の会員

の方々へ、会員名簿と全国代表者会議の資料を抜粋したものを添えてお知らせしました。

今後は、さらなる組織拡大めざすとともに、会員相互の交流や親睦等を深めて行きたいと考えております。

福井県支部 事務局 小林弥寿夫



## 大分県

**「おんせん県おおいた」はいつも、あったかい。**

大分評議会も今年で設立7年目を迎え、会員さん方のご協力もあり、現在47名の卒業生の方々と連絡を取り合えるようになりました。昨年度は、令和2年1月25日に第6回総会を大分市の大分センチュリーホテルにおいて開催したところ、16名の同窓生が集うことができました。また、評議会事務局からご来賓として、馬淵貞利会長様(当時)と出口利定学長様をお迎えし、大学における評議会の活動の様子や今後の展望についてのお話をいただくとともに、本支部活動へのねぎらいのお言葉をいただきました。会長様の参加は、平成27年から5年連続の出席になり、会員間でも一番に親しみが湧き、懇意にされている様子が見受けられ、その関わりに心から感謝しております。

参加された会員さん方は、認定こども園や小中学校、そして高校や大学、教育委員会等の教育に携わる方々やOBの方々等、それぞれにいろんな分野で活躍されており、参加についても、毎年参加している方、久々に再会した方、そして初めて参加された方といろんな条件が織りなす中で、お互いの近況報告の交流をする親睦会では、和気藹々と意気投合して

いる様子が数多く見られました。また、大学時代の懐かしい思い出を語り合ったり、次回総会への参加の約束もし合ったりしながら親睦を深めることができました。

短い時間ではありましたが、会員の皆さんと楽しいひと時を過ごすことができ、大学を通してつながることができる喜びを感じさせていただきました。また、卒業して間もない若い会員さんも参加していただくことで、年代を越えた大学時代の様子を知る機会となりました。

他支部の皆様も、是非、時間が許せば「田舎暮らし日本一、おんせん県おおいたの魅力」を実感されてみませんか。

大分県支部長 瀬口卓士(1989年A類社会科卒)



## 香川県

今年度は、コロナ禍のために年1回開催していた香川県支部会を実施することができませんでした。残念でしたが次回を期待しています。これからもできるだけ多くの卒業生に案内し、会員数をもっと増やしていきたいと考えています。今年

度から事務局担当者が、笠井真希子さん(H8年度卒)から横山彩友美さん(H23年度卒)に代わりました。

香川県支部 会長 原 彪

## 韓国

韓国支部は、新型コロナの影響で対面での会合及び活動は休止中ですが、オンラインで会員同士の近況・活動情報を共有しつつ、日韓グローバル教育や学生交流事業への支援体制を維持しています。2021年東京オリンピックの開催に

援、遠隔・ハイブリット型日韓研修プログラムなど、ポストコロナ時代における評議会のグローバル展開を準備しています。

韓国支部 金 範洙

## 東京学芸大学辟雍会支部連絡先一覧(2020年10月現在)

### ①北海道支部 連絡先 中村雅之

TEL:090-2874-2945 E-mail:m-nakamura1125@outlook.jp  
カムバック・サーモン!北の大地(北海道)は、皆さんの凱旋を待ってまーす。

### ②青森県支部 連絡先 里村 輝

TEL:090-8781-7482 E-mail:satomura-akira@m05.asn.ed.jp  
学芸大青森キャンパスでは、同窓生が楽しく友好を深めています。  
夢の続きを青森で。まずは連絡ください。

### ③岩手県支部 連絡先 日野澤明彦

E-mail:ptf62-akihiko-h@iwate-ed.jp  
故郷岩手での皆様のご活躍を期待しています。スポーツの力で岩手を元気にしていきましょう!

### ④宮城県支部 連絡先 高橋 晃

TEL:090-3647-2395 E-mail:akira30213@ezweb.ne.jp

### ⑤栃木県支部 連絡先 柏瀬省五(かしわせ しょうご)

TEL:0284-62-6229 E-mail:shogoka@ca3.so-net.ne.jp  
故郷へのUターン、心から歓迎。故郷の教育、文化、スポーツ、みんなで楽しみながら、発展させよう。待ってるからね!

### ⑥群馬県支部 連絡先 須永 智

TEL:090-7849-1059  
お互い、情報交換をして、日々の活動に役立てましょう。年末に支部総会懇親会を予定しています。

### ⑦埼玉県支部 連絡先 阿部博之

TEL:048-862-6857 E-mail:h-abe618@xa2.so-net.ne.jp  
翔んで埼玉! 若い力を待っています。

### ⑧千葉県支部 連絡先 石井康雄

TEL:047-438-9380, 090-3472-3788 E-mail:ishaso.fuki@gmail.com  
千葉県在住の同窓生のネットワークが必要です。千葉県支部へ加入してください。お待ちしております。

### ⑨神奈川県支部 連絡先 原 英喜

TEL:090-9800-5831 E-mail:hhara@kokugakuin.ac.jp  
世界に夢を!そして、国内でも夢を!苦労を語る仲間、同窓生のいることを忘れずに。

### ⑩山梨県支部 連絡先 鮎澤 謙

TEL:080-1217-1364 E-mail:yayuzawa@outlook.jp  
会員の輪をさらに広げ、楽しく集みたいと思っています。気軽に連絡くださいな!

### ⑪新潟県支部 連絡先 玉木 浩

TEL:090-9741-7520 E-mail:h01tamaki@yahoo.co.jp  
おめさん方もよう分かっていることろも、新潟はばあかいとこらよ。早うお帰ってきなせて。首なあごして待ってて。「越後に輝く獅子の星座のもと、集い、語り、絆を深めよう」

### ⑫富山県支部「獅子の会」連絡先 草野 剛

TEL:076-445-2803(勤) E-mail:kusano@fes.u-toyama.ac.jp  
富山では280人以上の方ががんばるとるよ。富山に戻るときには連絡しられ。まっとうっちゃ。

### ⑬石川県支部 連絡先 新村 裕二

TEL:090-5689-5618 E-mail:yuji-shinmura@kanazawa-city.ed.jp  
ふるさと、あなたの帰りを待ってるとるよ。新幹線かがやき号で帰ってきまっ!

### ⑭福井県支部 連絡先 小林弥寿夫

TEL:090-8704-7562 E-mail:y-koba2020@lime.plala.or.jp  
かたいんけのお! うらら、あんたが福井へ帰ってくるの 待ってるんやざあ 早よお~帰ってきなけの!

### ⑮静岡県支部 連絡先 大石 茂生

TEL:090-2617-7616 E-mail:shigeo-yasuko02@za.tnc.ne.jp  
静岡県で働かれるみなさん。私たち「辟雍会(へきようかい)静岡県支部」は、皆さんの先輩教職員の会です。皆さんとの「縁」を大事にして、「絆」を深め、互いに「誇り」ある教職人生をつくりたいと思っています。ぜひご入会を。待ってます。

### ⑯近畿支部 連絡先 木野康裕

TEL:079-420-0100 E-mail:kino@aigaku.gr.jp  
『よーし、明日から、また頑張るで』のエネルギーを持って帰って頂ければ嬉しい限りです。いつでもご連絡ください。

### ⑰鳥取県支部 連絡先 武田基資

TEL:0858-22-2037 E-mail:takeda\_mt@mailk.torikyo.ed.jp  
砂丘も大山も三徳山も、あなたの帰りを待ってるで。県人会発足30年、今年も集まります。まずはご連絡を。

### ⑱島根県支部 連絡先 玉林尚之

E-mail:tamarin511@sky.megaegg.ne.jp  
まめでおっちゃんさい。若い力まっちょーけん!

### ⑲岡山県支部 連絡先 幸相裕一(さいしょう ひろかず)

TEL:090-3746-8807 E-mail:hy-tnk@mx1.tamatele.ne.jp  
晴れの国岡山で待ってるけーなー!帰ってきたら連絡してーよー。美味しい肉や魚や野菜や果物をみーんなで、食べよーやー。楽しみにしてとるで。

### ⑳広島県支部 連絡先 田中信也

TEL:090-4806-7177 E-mail:s\_tanaka@hiroshimaymca.org  
広島に戻ったときはぜひ連絡を。個性豊かな先輩たちがお待ちしております。

### ㉑香川県支部 連絡先 原 彪(はら たけし)

TEL:090-8699-3434 E-mail:st-hara1128@ma.pikara.ne.jp  
地元香川にはうどん以外にも全国に誇れる文化や産業がたくさんあります。東京で磨いたみなさんの力でそれらをさらに素晴らしいものにしていこうで。そのために故郷に帰ってこいや。先輩もたくさんあるで。

### ㉒高知県支部 連絡先 中山泰志

TEL:090-4976-9220 E-mail:k-kobun4769@docomo.ne.jp  
ひろめ市場の雰囲気懇親会をしています。メールでもかまいませんので気軽に連絡して下さい。

### ㉓佐賀県支部 連絡先 小松原修

TEL:090-1089-8832 E-mail:samukomatsubara@yahoo.co.jp  
教育に携わる卒業生とマスコミに携わる卒業生でがばい調和がとれています。パルーンに乗って同窓会してます!

### ㉔熊本県支部 連絡先 藤田まり子

TEL:096-357-9417(勤) E-mail:fujita.marikoB@city.kumamoto.lg.jp  
阿蘇に負けん!パワーと、天草の海のごと綺麗な心で、熊本の学校を元気にすつためにがんばるとるばい!

### ㉕大分県支部 連絡先 瀬口卓士

TEL:090-9070-2962 E-mail:seguchi-takuji@oen.ed.jp  
こころもからだもあつたけえ日本一の温泉県大分で、いつでん待っちょるけん!卒業したてのわけえ先輩も、よーけ入っち、何と40名を越したで。びっくりすんなえ。みんなが仲いいけんいつでん連絡してな!

### ㉖宮崎県支部 連絡先 村中田博

TEL:090-8831-8076 E-mail:hm110629@gmail.com  
300名くらいの名簿ができたっやがー。卒業生がげ活躍しちよるよー。みんな誰かとながっちょって、てっけおもしりっやがー。ひったまがるわ。連絡しないよー。待っちょるよー!

### ㉗鹿児島県支部 連絡先 雲井未敏

TEL:099-285-7766  
鹿児島では、桜島が毎日噴煙を上げています。その力強い始動は鹿児島島の全ての同窓に届いているはず。支部の和も同じように広がってほしいと願っています。

### ㉘韓国支部 連絡先 金範洙(キム・フンソ)

TEL:090-6106-0493 E-mail:bskim77jp@yahoo.co.jp

【これまでに設立された辟雍会の各支部では、皆さんからの連絡を待っています】

①「新しく支部を設立したいとお考えの方、その他お問い合わせは<東京学芸大学辟雍会事務所>へお願いします。

# 1

## 会員から



### 「学んだことを忘れても生き残る」教育

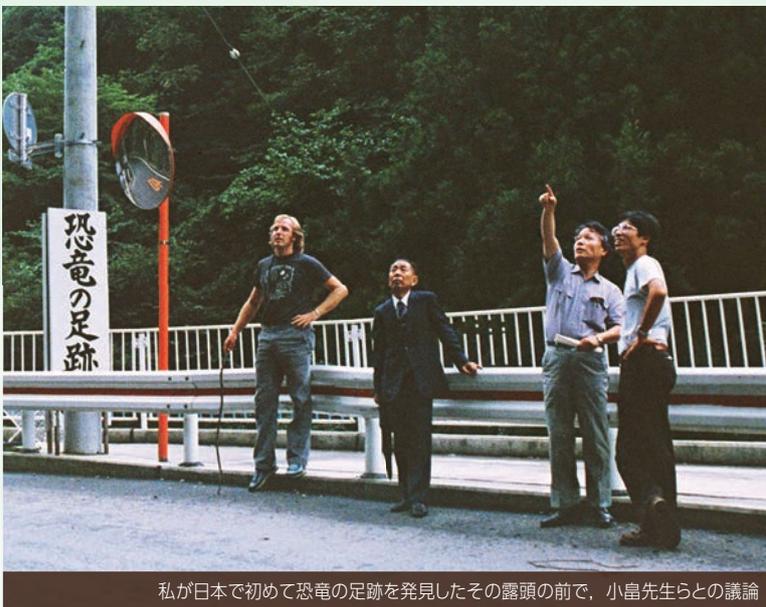
辞雍会副会長 東京学芸大学名誉教授 松川正樹

半世紀前、全国に吹き荒れた学生運動により、東大と東京教育大学の入試の無かった昭和44年が、私の大学入試でした。私は、北の旧帝大を目指していましたが、受験に失敗しました。私の出身高校は、毎年、学芸大への進学者が多く、私は二期校として、学芸大を受験し、入学しました。そして、地質学を勉強し、教員になることなどは、想定外でした。ましてや、将来、研究者として人生をおくること、外国で研究をすること、学芸大学の教授になること、家内と学芸大学で知り合い結婚することなど、知るよしもありませんでした。さて、入学しても、学生運動で、授業が無いこともありました。私は、受講した専門の授業には学問性を感じず、教育学の授業には眠気を覚え、疑問の日々でした。ただ、地層を見る巡検、化石採集、地質調査や地質の研究には興味を抱き、大学院で、地質学の研究を続けることにしました。しかし、私は、当時の教授陣の研究力、教育力と教員養成力に疑問を感じました。修論をまとめるに当たり、訪ねた国立科学博物館の小島郁生先生は「人種が違う」と感じたほど輝いていました。一流の古生物学者です。それ以来、私は小島先生にご指導頂き、プロの古生物学者としての道を歩みました。しかし、勤務した愛媛大学・理学部助手の研究生活と、理学博士取得時の極度のストレスから、私は、超重症のノイローゼにかかり、学問を研究することへの疑問を抱く日々でした。そのような折、その悩みを解消する手段としたのが、自身の研究の学校教育への還元でした。そして、地学教育の論文を幾つか書くことができ、理科教育へ興味を覚えました。学生時代、授業の中で、最もくだらなく、つまらないと感じていたのに、まさに「教育は、学んだことを忘れても生き残る」との格言の実例でした。

私は、平成7年4月から、母校の学芸大で、理科教育の授業を担当する教員として勤務することになりました。そして、



2015年より北米での研究拠点としているサンフランシスコの自然史博物館の研究室



私が日本で初めて恐竜の足跡を発見したその露頭の前で、小島先生らとの議論



開発した生態系の授業実践 (八王子市立中山中学校)



開発した地質の野外授業。立川の多摩川河床 (八王子市立中山中学校)

授業・学生指導にあたり、「私が学芸大学での授業や研究が面白く無かった理由は何か?」、「学芸大学の教員養成で求められる内容は何か?」「学芸大学の教員として求められる資質と教員像は何か?」などを考えました。学校教育では、学問研究の成果に基づいた内容を教えるので、将来教員となる学生に教科指導力を担保しなければなりません。特に、理科では、最新の研究成果が取り上げられているので、大学での教員養成の役割は大きいのです。私が小島先生は「人種が違う」と感じたのは、先生の一流の研究力とその指導で、第一級の研究テーマ(最先端の科学の研究)、新しいこと、開発能力の要求(創造性の育成)、論文原稿を赤字で修正(手本を示す)に感激したからです。そこで、私自身の研究テーマを発展させ、それから派生する問題を卒論、修論と博論のテーマとし、研究の進展と科学的思考力、問題解決能力、発表力の養成に努めました。一方、授業では、理科教育をどれだけ語っても所詮は現場の教員の実践には叶わないと思い、私の専門とする地質学や古生物学を基に、自然を科学する方法の学校教育への適用など、学問色の濃い内容で通しました。最後に、「学芸大学の教員として求められる資質と教員像は何か?」に対して、私は、レベルの高い専門研究とそれに基づく教育の研究ができる二足の草鞋を履く教員を目指しました。これは、学芸(リベラルアーツ)という学芸大学の創設の理念です。例えば、学校で、

お話し単位と揶揄されている地質や生態系に関しては、野外観察に基づき、程よい複雑さを持った解析と推論に基づき、明快な結論が導き出せる教材を開発し、敢えて、実現可能の実例を示しました。これは、1億年ほど前のある地域の陸上生態系をモデル化、復元して、生息する恐竜の個体数を計算で見積もる方法を開発し、その論文が世界的に注目されたことに基づく産物でした。私が、学芸大創設の理念を履行できたのは、学生・院生の時に「教育のシャワー」を浴びたことに因ると思います。学芸大学の教員は、教員養成学部、理学部、工学部などの出身者で構成されています。この多様性は、それぞれの学問の専門性に期待しているからであり、経験のない理科教育などの研究では無いはずで、そして、学芸大の学生は、それらを基に、教員候補生として成長するのだと思います。

私は、イギリス人の友人から教育(education)と訓練(training)の違いに関して、Difference between 'training' and 'education' in that education is what survives when what has been learned has been forgotten. (教育は、学んだことを忘れても生き残るものである)という格言があることを教えてもらったことがあります。私にとって、学芸大学での教育は、まさにその格言通りでした。

1974(昭和49)年卒業 A類理科選修

1976(昭和51)年修了 大学院修士課程理科教育



コロラド大学での研究専念期間の出発前の研究室でのパーティー



学芸大で知り合った家内とツーショット

# 2

## 会員から



### これからの教育委員会の姿を求めて

小金井市教育委員会教育長 大熊雅士

今日は、令和2年11月20日である。現在小金井市教育委員会の教育長の私にとって、忘れられない日になるかもしれない。なぜなら、小金井市立小中学校の子供に陽性の判定が初めて出た日だからである。この原稿が出る頃は、あの日を境に急激に感染が拡大した日となるか、もしくは、あの時は緊張したね。と言う日になるかはわからない。いずれにしても、コロナ危機の真っ只中にいることだけは確かである。

令和2年2月27日安倍首相の「学校の休校を要請する」と言う言葉を聞いた時、私には「津波が来るぞ」と聞こえた。すぐさま、小金井市医師会と相談し、「休校にする」ことを決定し、翌日9時30分には校長会を開き、9時45分には、各校長は、3月2日から学校が休校になることを、学校に携帯電話で伝えていた。ちなみに文科省や東京都からは文章が届いたのは、11時を過ぎていたと記憶している。

なぜ首相の言葉が私には「津波が来る」と聞こえたのか？それは、東日本大震災を経験したからである。当時私は東京学芸大学の教職大学院の特任教授をしていた。地震の報道に心を痛めていたが、この震災を自分事化したのは、大学院で担当した福島先生から「被災した子供が転校してきた。どのように関われば良いか」と言うメールが届いた時である。私は心理の専門家である小林正幸先生に回答を依頼した。その回答内容は、被災した多くの方々を知っていただきたい内容であると思い、小林先生の了解のもと、当時始めたばかりのFacebookに投稿した。その投稿は、ものすごい勢いで拡散した。

この事を受け、小林先生と私は心のケアを目的としたキャンプを計画することになった。そのキャンプは、



小野川湖の星空



みどりの東北元気キャンプファイナルの集合写真

本年コロナによる中止になるまで、福島県の裏磐梯の小野川湖等で、毎年夏と春に合計21回開催し続けてきた。その間、参加人数は、スタッフを含めると延べ2000人を超えた。

キャンプを行うに当たって、私は被災地を何度も訪問した。小名浜の岸壁に打ち上げられた大きな船。仙台空港のはるか手前の道端に飛行機。人で溢れかえる避難所。大川小学校、大槌町役場にも行った。どれも忘れられない光景であるが一番の衝撃は、キャンプに来た子供が全員マスクをしていた事である。中には、首からは線量計を下げている子さえいた。我々を用意した線量計で、小野川湖の線量は東京と変わらない事を伝えた。子供たちは恐る恐るマスクを取った。

このような経験によって、自分の中に「安全はすべてに優先するというものさし」が出来上がっていたのである。

いくらメディアが発達し、リアルに地震の様子を見聞きしても、自分の問題として受け止めているとは言えない。問題を自分事化するとは、この事例からわかるように、目の前に起こった事象を自分の問題として受け止め、自分なりに解釈し、その問題の解決策を導き出し、それを試みる。その上で、振り返りを行うことが必要なのである。そのようにして作り上げられた経験は、自分の中の価値観として定着する。これを自分「ものさし」と呼んでいる。

今も、2月27日の判断が正しかったのか振り返っている。もっと先生方の声を聞けなかったのか、子どもたちの声を聞くことはできなかったのか？と。

実は、最初の決定以後、教育委員会単独で物事を決定していない。常に校長会と連携し決めている。他市に先駆け遠隔で校長会を開くこととしたのは、そのためである。

このように方針を転換したのは理由がある。先行き不透明な社会を自分らしく生きていくためには、多くの仲間と協働する必要がある。共に活動をする際、自分の「ものさし」による判断を他者に押し付けてはならない。

これからの子どもたちは、世界の方々と協働で仕事をしていくことになるであろう。その様なときには、日本人としての自分「ものさし」だけでは、仕事をすすめることはできない。常に相手の「ものさし」を自分の中に取り入れることが大切である。これは容易なことではない。そのためにまず、自分にどの様な「ものさし」が存在するのを見極めることが大切なのではないか。未来を自分らしく生きる子供を育てるために、新しい教育委員会としての姿を、今後も求めていきたいと考える。

2008年から2014年（教職大学院 特命教授）



小野川湖から見る磐梯山

# 3

## 会員から



### 工学教育を通して思うこと

豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授 吉田絵里

私は現在、愛知県にある豊橋技術科学大学で化学を教えている。私に最初に化学の道を開いてくださったのは、学芸大学の3,4年時に所属した有機合成化学研究室での指導教官だった滝澤靖臣先生である。研究室配属直後に滝澤先生から卒業後の進路を聞かれ、「教育職に着く前に大学院に進学して化学を続けたい、それがダメだったら」そういいかけた途端、「その先は今考えなくていい、ダメだったらダメになった時に考えればいい」とおっしゃられた。滝澤先生の言葉に励まされ、感謝と信頼の念を抱いたことを覚えている。当時、化学教室の有機化学分野には長谷川正先生と遠藤節子先生もいらっしゃり、教室全体が学生の希望を後押ししてくださる温かい雰囲気と活気に満ちていた。このような環境で、学生は夢に向かって邁進することができた。卒業後、私は東京工業大学大学院に進学し、修士および博士課程を修了後、幸運にも現在まで一貫して大学で教育と研究に携わっている。

豊橋技術科学大学は国立大学の中では少々異色で、全学生の80%を国立高等専門学校から学部3年次への編入生で占める。彼らは中学卒業と同時に理系に進んだ理系人間の集団である。また、留学生の比率も



豊橋技術科学大学のキャンパス



ニューヨーク市立大学クイーンズ校の先生方および研修に参加した教員らと

15%と高く、世界32カ国の地域から集まってきた学生によって、多文化共生のグローバルキャンパスになっている。そのため、講義はすべてバイリンガル形式で行われる。授業では、話す言葉こそ日本語だが板書はすべて英語である。日本の学校教育で育った日本人学生には入学直後は戸惑いもあるようだが、工学の専門科目を日英同時に学ぶことができる点で、教育的な効果も向上している。英語が堪能な留学生を前にして行うバイリンガル授業は、教員側にもある程度の緊張感が伴い、英語の高い熟練度も要求される。バイリンガル授業の質の向上を目的として、教員にはニューヨーク市立大学クイーンズ校での英語研修の機会が設けられており、私も2016年に半年間クイーンズ校に滞在し、英語での教授法と日米の教育の違いを学んだ。米国ではギフトド教育に代表されるように、先天的に与えられた能力を開花させ伸ばすのが教育であるという基本的概念がある。その先天的能力を多方面から引き出すことを目的とするためか、文系・理系といった明確な区別はなく、むしろ各々の専門分野が緩く融合し補い合っている感がある。学習や訓練によって後天的に能力を習得することを基本概念とする日本の教育とは対照的で、各専門分野が特化している日本の工学教育を見直す機会にもなった。この英語研修後、私の専門分野である高分子化学の国際学会で、招待講演や基調講演を行う機会が増えたことは大きな収穫になった。

大学で教鞭をとるメリットは、自身の専門分野を通して国籍や人種に関係なく多くの若者の成長に関われることだと思う。このことは所属機関内に限定されない。国際学会の組織委員や学術雑誌の編集委員をしていると、国内外の若手研究者に国際学会での招待講演や

学術雑誌への総説執筆を提供できる機会に恵まれる。これは大学の教員としてだけでなく、研究者としての喜びでもある。また、全国の女性科学者が集う日本女性科学者の会の理事をしていて感じることは、女性教員の比率が10%にも満たない工学系の大学で、ときに不遇な状況に見舞われても、それを物ともせず自身の研究を貫き通す強い精神力と使命感をもった女性科学者が多いということである。尤も、何かを成し遂げようとするときに強靱な精神力が必要不可欠なことは、女性科学者に限ったことではない。苦しい状況の中でも諦めずに努力を重ねていけば、必ず道は開ける。

近年、特に工学系の大学でプレゼンテーション教育が重視される中で、学生のときに化学実験の講義の一環として行われた、自身のスピーチをビデオに撮って視聴するなどの学芸大の教育プログラムが参考になることが多い。学芸大には学校教育の中核としてだけでなく、多様化する大学の教育でも模範であり続けてほしいと願う。母校のさらなる発展を期待している。

1989(平成元)年卒業 A類理科選修



2017年にシカゴで開催された化学工学の国際学会で参加者らと

# 4

## 会員から



### 先生方もアーティスト

サイエンスアーティスト 市岡元気

#### 1 現在の活動

私は現在「サイエンスアーティスト」として活動しております。サイエンス (科学) × アーティスト (作品を創作・想像し、表現する人) ということで、「YouTube実験動画の作成」「サイエンスライブ」「TVでの実験・罰ゲーム」「書籍」「音楽ライブの演出」「科学館展示の作成」など幅広く活動しております。

目標は「世界一の字科学YouTubeチャンネルを創る」「科学のテーマパークを造る」ことです。

#### 2 現在の活動の経緯

##### ●実験動画をYouTubeに投稿し始めた経緯

沢山の方に科学を好きになってもらいたいという思いから始めました。A類理科を選修して幼小中高の教員免許も取得しましたが、先生は1クラス40人、学年でも200人くらいにしか教えることができないので、一度に大勢の方に科学に興味を持ってもらうことは困難です。しかしサイエンスライブでは一度で数百人、テレビであれば数万人、YouTubeであれば世界中数百万人の方に科学の面白さを伝えることができます。例えば、マスクの原理について取り扱った動画は150万回以上再生され、多くの方に科学の魅力を伝えることができたと思っております。最近では金が王水に溶ける現象について取り扱った動画も100万回以上再生されています。

テレビの仕事では見た目が派手な実験しか会議を通らず、教育になる実験はあまり取り上げられません。教育になる実験も自分の好きなように作りあげ公開できることもYouTubeでの活動を始めたきっかけです。学校で習う原理を楽しめる実験で取り上げることで、科学に興味を持ち、理系分野の研究・開発に進む人が増え裾野が広がり、日本の科学技術がより向上してほしいと思って活動しております。

#### 3 実験動画作成に際して

##### ●動画の題材を探す際に心がけていること

私は動画のネタを思いついたときにはすぐにiphoneのメ



モ機能でメモを取り、大量にネタをストックしています(現在数百個)。多くの方に見てもらうために、過去に考えた実験の中から、現在のトレンドに合わせて配信しています。

話題性の高いものは興味を惹きやすいので、見る人に興味をもっていただけるタイミングを見計らって動画を制作しています。授業でも、話題性を取り入れると生徒が興味を惹きやすいと思います。アニメは年間の放映時期を調べて、そのタイミングに合わせて数か月前から準備をしています。例えば最近(2020年10月現在)ですと、映画「鬼滅の刃」のなかで、主人公の炭治郎が使う日輪刀という武器を作りました。この武器は覚醒すると黒い刀が赤い刀へと変化します。そこで、この武器を、融点660℃のアルミホイルを溶かし刀を作り、温度で色が変わるサーモインクを使い、科学をより身近に感じやすくなる工夫をしました。

#### ●受動的に科学を勉強できるような工夫

科学を好きになってもらうには、勉強をする気がなくても勉強になったと知識欲を刺激してあげる工夫が重要だと思っています。以前「メタルスライムを溶かしたらはぐれメタルになるのでは?」という実験をしました。融点が40℃くらいの低い低融点合金を使用しメタルスライムを作成しお湯をかけて金属を溶かしました。この動画は、ゲームにしか興味のない子どもがゲーム攻略方法などの動画を見ていると自動的におすすめに表示され見ることになります。そこで見てみると勉強するつもりがなくても、子どもたちが学べてしまう。そんなきっかけ作りとなる子どもの興味と科学的な知識を掛け合わせるような動画をつくることを日々考えています。

#### 4 現在の課題

現場の教育者とSNSを使う教育クリエイターの格差があると思います。教育系YouTuberやSNSなどを駆使してメディアを広めている教育系のクリエイターの方達が最近は沢山出てきました。その方々と実際の教育現場との格差があると思っています。

例えば、私もできる限り原理や数式などを動画の中に入れ、より勉強になるような動画を作りたいのですが、そこを深掘りしすぎると沢山の方へは届かない。見てもらえない動画は作ってもやっていないのと同じだと思って、できる限り幅広い



方へ興味を持って見てもらえる動画作りを心がけています。そのため難しい説明や計算はどうしてもカットして説明しなくてはいけなくなる。一部の先生方はそれを受け入れ授業で導入として使ってくれる方もいるのですが、一部の方々からは、私の作った動画はアカデミックでは無く表面だけを伝えるものと思われ毛嫌いする方も多いかと思っています。

今後教育現場と教育メディアクリエイターの方々と交流を通して理解を深めてもらったり、こちらからもノウハウを共有などして格差を埋めていくことができないかと思っています。

#### ●先生方もアーティスト

先生方も目の前の子ども達に、どう興味を持ってもらいやるを引き出す授業を創り上げていくか。日々考えていると思います。毎日勉強の魅力を伝えるお仕事をしている現場の先生方も授業のクリエイターでありアーティストだと思っています。ぜひこれから一緒に何かできないか考えています。

#### 5 今後の展望

2021年の3月春休みという期間に「さいたまスーパーアリーナ」の会場をとりました。まだ会場をおさえただけで何をやるか決まってないのですが(2020年11月現在)、そこで教育クリエイターたちが集まってステージで子どもたちに勉強の楽しさを伝えるフェス、お祭りみたいなものができるかと考えております。

そこでSNSで発信している「教育クリエイター」達と実際の教育のクリエイター「先生方」が合わさってスーパーアリーナのステージで教育の面白さを発信できたら面白い化学反応が生まれて新しい事ができないかとワクワクしながら考えております。

今後も幅広く活動していきたいと思っています。興味を持っていただけた方々、一緒に力になっていただければ幸いです。

2006(平成18)年卒業 A類理科選修

# 5

## 会員から

### 学大卒業生同士、いつまでも続くつながり

社会福祉法人 前橋市社会福祉協議会 一柳大輔

#### ■学生時代

私は2005年にN類カウンセリング専攻へ入学した。決して優秀な学生では無かったので、勉強に関することはここでは書かない。いや書けない。その代わり情熱を注いだストリートダンスサークル@fterbeerでの思い出を紹介したい。田舎から上京してきた私にとってサークルの先輩たちは眩しかった。転機は2年生、ダンス初心者の僕が部長に任命されてしまったことだ。200人近いサークルで、余裕はなく、周りに配慮も出来ない状況でした。そんな中で、副部長だった小林陽介君(現在は、東京都の中学校で数学教師をしている)にはとても助けられた。小林君は、公演などの大事な日の前日にサークルメンバー全員にメッセージを送り、僕に代わってサークル内に一体感を醸成し、公演を成功に導く手助けをしてくれていた。他者に思いやりを持って接することの大切さを彼から学び、その後のサークル運営を軌道に乗せることが出来た。

ダンスだけでなく、地域活動も積極的に行った。小平市教育委員会と共に「小平よさこいダンスフェスティバル」を開催した。市内の小中高大学が「よさこい」をアレンジしたダンスを披露するイベントで、その運営を@fterbeerに任された。3,000人以上の規模で、終わった後の達成感は何事にも変え難いものがあった。そのイベントを取り仕切っていたのが、サークルの先輩、岡本和隆さん(元ダンサー、現在は東京都中学校保健体育教師、NPO法人こども未来研究所学術フェロー)だ。1年生だった私を可愛がって下さり、運営メンバーに入れてくれた。これがきっかけで、当時の学長で、辟雍会会長も務められた鷲山先生と知り合うことが出来、今回の執筆まで繋がっている。岡本さんとは、15年以上の付き合いになるが、私の人付き合いをする上でのロールモデルとなっている。令和2年はサークル創立20年イベントを企画していたが、新型



@fterbeer の学祭公演でのワンシーン。多様なメンバーでした。



キャリアデザインセンター時代の学芸卒業生会(筆者横が奥野さん)



広島県坂町での災害支援。全国から同志が集まりました(平成30年豪雨災害)

コロナウイルスの影響で、延期となってしまった。

### ■社会人になってからの出会い

新卒でアパレル会社に就職し、バイヤーを経験したのち、更に厳しい環境で自分を磨きたく、人材広告の営業職としてキャリアデザインセンターに転職した。ここでも同窓生の奥野光一さんとの出会いがあった。彼は営業が受注してきた大型案件の広告効果を最大化するための運用支援を行う部門の担当だった。たまたま私の案件を担当してくれることになったのだが、そのやりとりを通じて薫陶を受けた。奥野さんと対応中のクライアントへメールを終えて、終電ギリギリで帰宅。家でくつろいでいると奥野さんからの着信。クライアントに対する私の対応の不備に気づき、そのことに対しての指摘を受けた。妥協せず、スピード感を持ってクライアントに向き合う姿勢にはとても感動した。私が営業企画に異動してからは、業績分析などで逆にサポートすることも増え、恩返しが出来たと思っている。帰り道が一緒に、東横線の学芸大学駅(これも運命を感じる)の居酒屋で仕事について朝まで語ったことも数えきれない。彼からは、仕事に対してこだわり抜く姿勢を学び、仕事観に大きな影響を受けた。その後、奥野さんは激務の中で猛勉強し、東京都の教員採用試験に合格し、予ねてからの目標だった教員をされている。

### ■現在

コロナ禍でも大学の繋がりに助けられている。サーク

ルの先輩の佐々木輝さん(宮城県名取市で公務員をされている)が主宰しているzoomを活用した「朝活」に参加している。最近読んだ本の話や、仕事のこと、それぞれの専門性に関することなどの対話を通して、思考の整理や仕事へのモチベーションを維持することに役立っている。

現在は、地元前橋市の前橋市社会福祉協議会に勤務している。事業内容は多岐に渡る。わかりやすい事業だと、生活困窮、8050世帯、ごみ屋敷問題といった、生活に課題を持つ人々の生活再建に関わる支援をしている。災害現場派遣への派遣も行う。平成30年豪雨災害では、広島県坂町へ、令和元年台風被害では、いわき市に入って、ボランティアコーディネートをを行った。被害が大きい地域は、復旧まで道半ばというところも多いが、1日も早い復興を願うばかりだ。

プライベートでは、子育てをしながら、仕事の専門性を深めるため、県内の大学院で、地域福祉を学んでいる。自分の力を最大化し、仕事で価値を生むためにも、学び続けることは重要だと考えている。

ここでご紹介した方以外でも、多くの人に支えられて今まで成長することが出来た。いつも感謝の気持ちを忘れずにいたい。

2009年(平成21年)卒業  
人間福祉課程カウンセリング専攻

# 6

## 会員から

### 我が人生の分水嶺、学大時代

元静岡県教育長 遠藤亮平



#### はじめに

この度、「辟雍」への寄稿という大変有り難い機会を与えていただいたことに、先ずもってお礼を申し上げます。

#### 学大時代

50年前、我々団塊の世代の大学入試には、一期校、二期校がありました。国立の授業料は月千円、寮費は大泉寮が確か月百円だったかと記憶しています。家庭教師が、週二回で月一万円位だったので、そこそこ恵まれていました。

私は野球部でしたが、仲間にとっては全く頼りない存在であったに違いありません。背が高く肩が強い、ただそれだけの理由で、三平さんや森田さんなど諸先輩にピッチャーとして育ててもらいました。

神宮第二球場での新大学リーグ公式戦、隣の神宮球場からの六大学観戦の大声援がこだまする中、我が第二球場は、今でこそ流行りになった「無観客試合」の連続でした。部活で印象深いのは、合宿時、全員がバスで宿舍と球場を往復する中、バッテリーだけ走らされたこと、そして顧問の羽鳥先生が遠路大島まで来てくださったことなどが、懐かしく思い出されます。

思うに、当時、私は走らされていました。「やらされる」のではなく、自ら「やっていたら」どうなっていたのかと、今更ながら考えることが屡々あります。

私は、教育の本質がここにあるような気がしてなりません。如何にして「その気にさせる」か。いや、させると言っては、語弊があるかもしれません。言い換えれば、「本人のやる気を引き出す」。教師の役割は、このことに尽きるのではないのでしょうか。

私の学大時代は、正に野球と家庭教師の明け暮れでした。



採用試験で、静岡県が私を拾ってくれました。一次の数学の筆記では一夜漬けが功を奏し、二次の面接では野球の話題オンリー。全くのラッキーで、「芸が身を助くる」ことを実感しました。

### 静岡県での40年に亘る教員生活

縁も所縁もない静岡での最初の赴任校は森高校でした。出来立てはやほやの野球部の監督に就任。静岡県民の尋常でない野球熱に肌で触れ、試合前日に胃痛で食事がとれない経験を幾度となく味わいました。

38歳の時、青天の霹靂で、県教委へ。事務局入りは、転勤ではなく転職であると痛感させられること頻り。教壇から引き離されて初めて、何と自分は今まで生徒を粗末に扱ってきたのか、そして生徒は教師にとっての宝物であると思知らされ、教師の何たるかを考えさせられる機会となりました。その後、県教委と学校現場を四往復。県庁に入る度に、次は何時この監獄(?)から脱出できるかと仲間内で慰めあったりしたものです。

2001年、静岡の名門、静岡高校へ赴任。ここで、監督としては出場が叶わなかった甲子園に、校長として果たすことができたのは忘れ難い思い出です。

静高での執務中のある日、鷲山恭彦先生が校長室に訪ねて来られ、学大同窓会の静岡支部立ち上げの話が出ました。その折は、自分の現役生活の間は難しいと事情を申し上げてお断りしましたが、退職後に、辟雍会会長に就任されていた鷲山先生に再びお目にかかり、2011年春、めでたく静岡辟雍会を設立することができました。

### 「袋井まちそだての会」に携わって

教育長を退いて間もなく、地元有志に誘われて「袋井まちそだての会」に参加する運びとなりました。地域に眠る文化財の掘り起こしです。

2011年は、地元禅宗の名刹「可睡齋」にある護国塔建立100周年の年でした。この塔は、日露戦争の慰霊



塔で、伊東忠太博士の設計、当時としては画期的なガンダーラ様式、鉄筋コンクリート造です。100周年の記念式典を成功裡に終え、次の活動は、同じ境内にある日清戦争に関わる記念碑「活人剣」。これは、講和条約締結のために来日した李鴻章全権が負傷した際、類稀な医術で李を救った佐藤進医学博士の偉業を称えと共に、日清両国の方々を敵味方の区別なく弔うための記念物。高村光雲作の剣が戦時下供出されて石の台座のみが残る中、多くの方々の協力を得て、新たな活人剣の建立活動を展開。2015年、宮田亮平東京藝術大学学長(当時)の手による平成の活人剣が完成。明治の創建の理念を引き継ぐとともに、日中友好さらには世界平和への祈りが込められた活人剣です。

この活動の最中、文科省からのお誘いで、公立学校共済組合監事に就任。65歳にして新幹線通勤を開始、片道3時間弱で250キロ、3年間の移動距離は、実に地球9周余りに及び、全国30数県を巡りました。その後、縁あって東京での日本語学校や可睡齋の寺史作りのお手伝いの日々を過ごしています。

### おわりに

来た道を振り返った時、学大の4年間があってこそこの我が人生であったと、熟々実感します。「人間至る処、青山あり」、学大には、次代の教育界を担う人材をこれからも多数輩出願います。

有り難う、学大!!

1970(昭和45)年卒業 乙類数学

## コロナ禍の中で想う

前辟雍会会長 馬淵 貞利

このコロナ禍の中で、去る9月6日、私の敬愛する竹内 誠先生が逝去された。享年86歳。もっともっと長生きしていたかった。竹内先生は、昨年からの身体のおちこちに転移する厄介なリンパ癌を患い入院を繰り返しておられたものの、快復したら食事会をしようと意気軒昂なお話を伺っていたので、突然の訃報に驚き、悔しくてならない。コロナのためになかなかお目にかかる機会も得られなかった。

竹内先生はその創設に深く関与された江戸東京博物館館長の職を長年にわたり務められ、江戸東京博物館を今日まさに東京の顔とも言うべき施設に育て上げられた。小金井公園にはその分館にあたる江戸東京たてもの園があり、学芸大学を定年退職された後も、そこに来られたときにはよく辟雍会事務所に立ち寄られた。また、2011年のホームカミングデーでは、「大江戸を語る—江戸の女性と子供たち—」という記念講演をさせていただいた。

私個人の竹内先生との思い出は数限りなくあるが、ここでは学芸大学のあり方に関連して、学科制委員会の時のことを振り返っておきたい。かつて1980年代の中頃に国立の教員養成系大学・学部の学生定員が過剰だとされて、必ずしも教員免許の取得を必要としないコース(今日の「教育支援系」の前身に当たるもので、多くの大学では「教養系」と呼んでいた)を教育学部の中に設置するという制度改革の議論が提起された。学科制委員会は学芸大学におけるその方向性を決めるという重要な役目を帯びた委員会で、竹内先生はその委員長、私は委員の一人であった。竹内先生から組織構想の原案作成を委嘱され、教員の研究組織(その基礎単

位を「研究室」と呼んだ)と教育組織(その基礎単位を「教室」と呼んだ)を分離し、全ての教員を研究組織に所属させるとともに、教育組織への所属は一定期間を経て柔軟に変更しうるようにするという案を提示したことを思い出す。その時、竹内先生から指示された留意点は、①教員間に格差が生じないようにすること、②教員の研究を十分に保障すること、③新しいコースの学生指導体制をしっかりとすること、の三点であった。大学の質は教員の質(人格も含め、とりわけその研究能力の質)で決まると言っても過言ではない。今日、教員養成系大学・学部教員が学校教育現場とつながりを持つことを重視する傾向が強まっている。もちろん、そのこと自体は尊重されるべき事柄であるが、大学教員は研究面で優れた資質を持っていることこそ第一要件とすべきものである。教員養成を大学で行うことや大学のあるべき姿を考慮すると東京学芸大学が誇るべき点はそのにあり、竹内先生は一貫してこのことを重視されていた。この後30年にわたり学芸大学の教養系が立派に存続し、教育系とあわせて多くの有能な学徒を輩出してきたのは、こうした観点が貫かれてきた証左だと私は思っている。

もう一つ、これに関連して触れておくと、竹内先生が面倒を見ておられた日本近世史ゼミでは正規の授業以外に古文書を読むという伝統が継承されていて、学生たちが直接江戸時代の原史料を読んで質の高い卒業論文を書くという気風が確立していた。そして、学芸大学の日本史を学ぶ学生たちの中から古文書が読める学校教員や博物館・美術館の学芸員になる人が数多く出た。そのことが竹内先生の自慢の



大鶴をめぐっての論争をまとめた白紙「大鶴をめぐっての論争」(2011年1月、東京・四谷三軒茶屋(写真提供))

### 竹内誠さん 享年86

## 論と愛 力士の先生

江戸東京博物館館長などを歴任し、日本相撲協会の教育所講師として長年、多くの新弟子に相撲史を教えた竹内誠さん(歴史学者「江戸文化史」)が6日、亡くなった。享年86。年3度の東京場所では取組に立ちきつ維持員として、証席から土俵に向き合った。

相撲文化、横綱論では幾度も意見を述べた。1983年1月、双葉山の連勝が9回で止まった翌日、歌舞伎役者の六代目第五郎が後継の手紙を送っている。2年前の秋、双葉山の遺族から手紙の公表の承諾を得た私は、竹内先生を訪ねて講評を依頼した。返物を手にした先生は珍しく興奮気味だ

### 相撲史、横綱論の「ご意見番」

たど、当時を論じた。「門前の小僧ではいけが双葉山も元は知識がなかった。思想や教養を身につけた。思想や教養を身につけた。70連勝を遂げた双葉山が、自らの未熟さを「イマダ、モウケイ(木彫)、タマリエズ」と表したのは、社会が言わしめた名言。その意味において、現代の横綱は「海」の海とも呼ぶ。横綱の高慢な振る舞いにも原因



遺族が送った双葉山に宛てた六代目第五郎の手紙

見せる人さえいない。伝統文化の担い手を「たが利用しているに過ぎない」などと、力士を取り巻く環境のタレント化を憂えた。白鶴が大鶴を抜く33度目の優勝を飾ったのは2015年初場所。「土俵下の控えて観戦を落とし、座敷を歩いているかのごとく、動かない」と白鶴が放つ静の美しさを認めた。「その目が生き、土俵水の取組を導くようになった」のは数年前から。独立の視点で褒えの始まりを突いていた。国技館の自席は正面番席の最前列、東詰。主の姿が見えなくなると1年以上上がってきたら、論と愛を持ったご意見番を失ったことが残念でならない。

一つでもあった。

思い返せば、この2020年という年は、コロナで明け、コロナで暮れる年になりそうである。年初には中国の武漢で起きている事態が対岸の火事のように報じられていたが、横浜港に接岸したダイヤモンド・プリンセス号から感染者が続出すると日本でもにわかに関心が高まった。また、年度末の3月になって全国の学校閉鎖が指示され、東京オリンピックの開催延期が現実化するとハチの巣をつついたような騒ぎになった。さらに、志村けんさんや岡江久美子さんの死が報じられると誰もが我が事のように深刻に受け止めざるを得なくなった。葬儀会でも私が会長職を終える最後の会議を開くことができなかつたし、その後のすべての企画が中止またはオンラインの会議になっていると聞く。

日本では10月末からウイルス感染の第三の波が押し寄せている。この後の展開がどうなるのか、予測することは難しい。ワクチン開発に成功しつつあるという報道が出始めているが、本当にワクチン開発に成功したといえるのは何時か? また、ワクチン接種の効果が生まれるのは何時か? それすらよく分からない。ましてやウイルスの変異がどんどん進んでいるとか、無症状の感染者にも潜在的な後遺症が広く認められるとか、ワクチンの効能期間が比較的短期間でしかなさそうだとか、不安要因の指摘も後を絶たない。

最後に、この場をお借りして葬儀会員の皆様のご健康をお祈りするとともに、2021年には葬儀会活動がますます発展し、東京オリンピックが無事に開催されることを願ってやまない。

## 東京学芸大学辟雍会修学支援金貸与

---

新型コロナ・ウィルス感染症等の影響で、東京学芸大学辟雍会の正会員である在学生在が、経済的理由により修学困難な状況に置かれている現状から、迅速に修学支援金の貸与ができるように始めた事業です。

事業は「原則として一人 10 万円を無利子で貸与する」というものです。

11 月 15 日現在の貸与の実績は 1 名です。

## 2019年度学生の近県学校等訪問事業「先輩たちのいる学校を訪ねよう!」

---

2017 年度から始まった標記の事業は辟雍会と東京学芸大学とが連携協力して行われています。これは学生の教員就職希望者への教職への動機づけを強化するために、大学より本会に協力を要請された企画です。近県及び都内の学校と連携して実施された学校訪問は以下の通りです。2019 年度はこれまでになく多く、7 校の訪問でした。いずれも、大学の先生とともに本会役員等が引率しました。(詳細は本会ホームページ参照)

### 【2019 年度事業】

1. 成蹊中学・高等学校 (東京都)  
2019 年 9 月 19 日 (木) 実施。参加学生 8 名。
2. 座間市立立野台小学校 (神奈川県)  
2019 年 9 月 20 日 (金) 実施。参加学生 6 名。
3. 多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校 (東京都)  
2019 年 9 月 25 日 (木) 実施。参加学生 6 名。
4. 国府台女子学院中学部高等部 (千葉県)  
2019 年 9 月 27 日 (金) 実施。参加学生 3 名。
5. 文京区立茗台中学校 (東京都)  
2019 年 9 月 30 日 (月) 実施。参加学生 7 名。
6. 富士見市立諏訪小学校 (埼玉県)  
2019 年 10 月 4 日 (金) 実施。参加学生 10 名。
7. 江東区立小名木川小学校 (東京都)  
2019 年 10 月 19 日 (土) 実施。参加学生 12 名。

### 【2020 年度事業】

今年度は新型コロナ・ウィルスの感染拡大によってこの事業は中止となりました。

## 2020年度 各部の活動

### 総務部

総務部は次の六項目を柱に、全体的な連絡調整を行っています。

- 1 全国代表者会議、理事会、幹事会の開催  
本年度は新型コロナウイルス感染症対応により、文書会議(メール会議)により開催した。
- 2 東京学芸大学との連絡・調整の実施  
本年度はお花見の会及び大学との意見交換会が、新型コロナウイルス感染症対応により中止となった。
- 3 既存の卒業生組織等との交流  
一般社団法人東京学芸大学同窓会総会は、新型コロナウイルス感染症対応により芸術館での開催が中止となり不参加、新年祝賀会は規模を縮小して開催予定である。
- 4 新規会員の入会手続き及び名簿管理業務等
- 5 機関誌、予算書、決算書、事業計画等の発送
- 6 規則等の整備・見直し  
辟雍会修学支援金貸与に関する要項を制定し、奨学金制度に関する要項は廃止した。

(総務部長 手塚穰治)

### 会計部

会計部は予算の作成及び執行を中心に次の活動を行っています。

- 1 2020年度予算の計画
- 2 予算の適正かつ効率的な執行
- 3 的確な会計事務の実施

(会計部長 佐藤節夫)

### 広報部

次の3つを柱に活動しています。

- 1 機関誌『辟雍』の発行
- 2 ホームページの管理と充実
- 3 広報リーフレットの作成

(広報部長 小澤一郎)

### 組織部

昨年度に引き続き、会の組織拡大に努めました。

- 1 支部設立事業は、本年2月22日に宮城県支部の設立が報告され、7月の理事会で承認されました。さらに、愛知県、山形県、兵庫県、沖縄県支部設立に向けての準備が進められています。さらなる支部設立

実現に向けて、組織部内の組織づくりを進めています。

- 2 未加入の新入生に対し、7月13日に486通の入会依頼文を郵送いたしました。新規に41名から会費の納入がありました(11月30日現在)。今後も学生、卒業生への加入を勧めてまいります。
- 3 既存支部の総会や各支部の会合等への出席については、今年度は新型コロナウイルス感染症対応により、出席が出来ない状況が続いています。
- 4 卒業・修了予定学生への配布物作成  
昨年に引き続き、「卒業生・修了生のみなさんへ」(既存支部紹介)という案内パンフレットを配付するとともに、記念品(辟雍会の名称入りボールペン)を贈呈しました。

(組織部長 二宮修治)

### 事業部

- 1 学生のキャリア支援事業  
学校等訪問事業(2020年9月3日、新型コロナウイルス感染症対応により計画の全て中止)
- 2 会員支援事業  
法律事例集出版支援、学生企画支援、学生の地方支部先輩訪問(計画中)
- 3 大学との共同主催事業  
ホームカミングデー講演会(新型コロナウイルス感染症対応により企画中止)
- 4 キャンパス環境充実支援事業  
ご当地桜・県木の苗木の植樹(調整中)
- 5 修学支援金貸与事業  
申請者2名/許可(2021年3月25日現在)
- 6 施設計画事業  
「辟雍会館(仮称)」計画を(調整中)

(事業部長 荒川悦雄)



2020年度 東京学芸大学学位記及び修了証書授与式風景(東京学芸大学提供)  
コロナ感染防止に対応し、卒業生1,398余名の代表者による令和2年度卒業式の一コマ

## あとがき

今年度の辞苑会は、新しく就任された長谷川正会長のもとに船出しました。しかし、大海はコロナが渦巻き、船の行先が阻まれることもしばしば…、それでも今号の『辞苑』第17号は、ここに何とかたどり着くことができました。寄稿してくださった方々にまずは御礼を申し上げます。

馬淵貞利前会長は亡くなられた竹内誠先生の足跡を偲びつつ、東京学芸大学の在り方の変遷を辿られました。本学への深い思いが伝わってきます。私事ながら、竹内先生が本学に着任して間もない頃に、新入生の八王子セミナーでの歓迎プログラムに携わられた折、それを院生としてお手伝いしたことを昨日のように思い起こします。

各支部におかれては、人の集まりが難しい状況の中で、ご苦心されているようですが伺えます。この機関誌が今こそ、会員間をつなぐ糸となればよいと願っています。

小澤一郎

発行人 長谷川正  
編集人 小澤一郎  
編集協力 井上録郎  
中西 史  
林 静代  
デザイン 門馬 純  
印刷所 (有)サンプロセス

東京学芸大学辞苑会

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

20周年記念飯島同窓会館2階

TEL/FAX 042-321-8820

E-Mail [hekiyou@u-gakugei.ac.jp](mailto:hekiyou@u-gakugei.ac.jp)

ホームページ [www.hekiyou.com](http://www.hekiyou.com)



竹笹でポーズ

photo : Noriko Watanabe



孤独です



ベランダでガングロと昼寝中



photo : Sudou

ネコ御殿特別室

2020年9月21日  
学士ネコ前髪ちゃん無事学士卒業  
某ネコ御殿へ居住老後生活に入る  
16年間大学でお世話になりました。  
ありがとう！



HEKIYOUKAI

辟  
雍

2020年 第17号

東京学芸大学辟雍会機関誌



「辟雍」第17号 東京学芸大学 辟雍会機関誌  
Copyright © 2020 Hekiyoukai All Rights Reserved.

---

[www.hekiyou.com](http://www.hekiyou.com)